

【電子版】



2025年 第15号 2025年 6月 4日

発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201

tel. 03-3875-8071

fax. 03-3874-4997

メール info@jikosoren.jp

ホームページ→



維新の法案提出に抗議の声あげる

RS全面解禁阻止行動

東北・関東・関西で宣伝行動

自交総連は、ライドシェア全面解禁阻止へ向けて旺盛な宣伝行動を行っています。5月14日には、ライドシェア法案を衆議院へ提出した日本維新の会に対して東京と大阪のそれぞれで抗議の声をあげました（東京は『情報電子版』No. 13参照、大阪は下記事参照）。

2025. 05. 14 大阪・大阪市中央区



維新・大阪府総支部前で抗議

自交総連大阪地連は14日、先にライドシェア新法案を提出し、全面解禁を求める日本維新の会に抗議すべく、大阪市中央区にある日本維新の会・大阪府総支部（三栄長堀ビル前）に宣伝カーを横付けして抗議の声をあげた。（中略）、山本雅広・常任執行委員（バス部会事務局長）が宣伝カーの上に立ち、市民らに向け、危険でバスタク業界で働くドライバーの労働者性を奪うRSの問題点等を訴えた。

途中、維新の支持者なのか、自転車に乗ったサングラスの中年男性が山本氏に罵声を浴びせかける場面もあったが、山本氏は動じることもなく30分近く演説を続けた。

終了後には吉村洋文代表や岡崎太・政調会長などの音声メッセージを流しながら走る維新の宣伝カーも路上に登場。一方で自交大阪の宣伝カーもRS反対のアナウンス

自交総連大阪地連が宣伝行動

を流しつつ、大阪府庁や市役所周辺、JR新大阪駅のタクシー乗り場などにも出向き、夕刻までアピールを続けた。

この日は東京地連、本部による抗議活動も同時に行われたため、普段であればRS反対運動の中心役を担う庭和田氏は不在で、山本、荒木正人（大阪個人タクシー労組委員長）の両常任執行委員を含む5人の組合員が参加。宣伝カーでマイクを握った山本氏以外のメンバーは、「被害を受けるのは女性に子ども、高齢者たち」「危険な白タク・ライドシェアはいらない」「RS全面解禁反対、プロドライバーに任せろ」とする横断幕が貼られた宣伝カーの前で「RS反対」とする赤いタオルを掲げながら、終始、無言の抗議を行った。

（以下省略）

【交通界速報2025. 05. 16付より】

関東ブロック 4県で宣伝行動を実施

関東ブロックは5月21日～22日に埼玉・茨城・群馬・栃木で宣伝行動を実施しました。

5月21日の朝10時から朝霞台駅前では宣伝行動を開始。石野議長・富松事務局長がマイクを握り、ライドシェアの危険性を訴えました。待機のタクシーがない時間帯でしたが、埼玉地連の仲間6人と共に、通行人にティッシュを配布しました。



2025. 05. 22 栃木・宇都宮駅前

続いて守谷駅では、タクシードライバーにライドシェア反対について掲載した機関紙・ティッシュを配りました。ドライバーは、「タクシーが足りないという議論はおかしい。現状タクシーは待機が多い」とこぼしてました。また、つくば市・土浦市・下妻市・牛久市で始まる公共ライドシェアについて、「ただでさえ若い人が集まらないのにほんとに集まるの？」と疑問を持っていました。つくば駅と土浦駅では、自交総連の機関紙を配布。土浦駅のタクシー待機台数は以前よりも多くなっているようでした。

翌22日は、朝9時から高崎駅でドライバーに機関紙とティッシュを手渡ししました。その後、前橋駅と宇都宮駅でも配布。宇都宮駅では、西口・東口共に多くの車両が待機していました。

ドライバーからは、「新しくできたLRT（次世代型路面電車）のせいで仕事が激減した。宇都宮ではタクシーは余っている、ライドシェアなんかいらない。組合さんでもっとがんばってほしい」との要望を受けました。

最後に、宣伝カーを宮城県仙台市の仙南タクシーまで持って行き、東北の仲間へ託しました。。

東北 2日間で80人のタクシー労働者と対話

東北地連は5月24～25日、岩手・青森県で宣伝行動を実施しました。岩手での宣伝行動は10年ぶりです。行動には、池田副委員長（委員長代理）、石垣書記長、斎藤執行委員が参加しました。

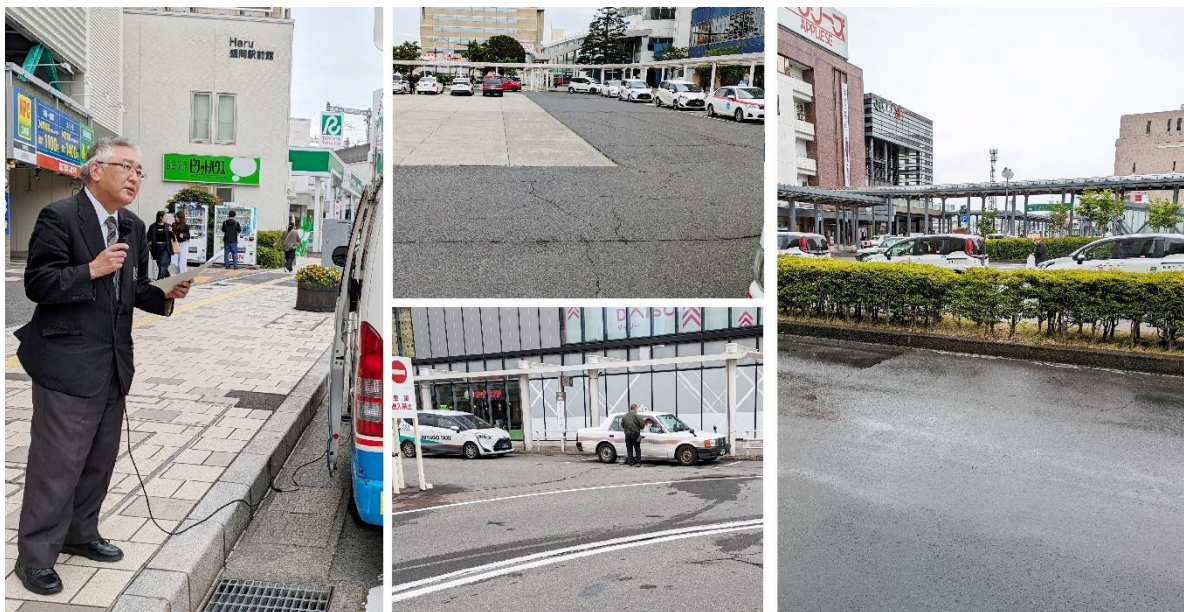
東北地連では、昔から東北各県に自交総連の旗を立てようと宣伝やオルグ活動にとりくんできました。しかし岩手・青森県には何度か組織が結成されましたが、定着せずにきました。コロナ以降は、宣伝行動も自粛し、それぞれの地域の抱える問題などについても把握できずにいました。

今回、これらの地域での宣伝行動を再開し、ライドシェア反対のとりくみ強化に加えて地域がおかれている状態の把握に努め、組織拡大に繋がられるようとりくみました。

宣伝カーで「ライドシェア反対」の音源を流しながら移動し、各所の主要駅で宣伝行動を行い、宣伝カーからの訴えやチラシ配布、タクシー労働者への聞き取りを行いました。2日間で80人のタクシー労働者と対話しました。

行動には、池田副委員長（委員長代理）と石垣書記長、斎藤執行委員が参加しました。

2025. 05. 24-25 （左）盛岡駅前、（中央上）八戸駅前＝タクシープールは常時10台以下で閑散としていた、（中央下）青森駅前＝一昨日からタクシープールが半分のスペースになった、（右）弘前駅前



【5月24日】 宮城県仙台市→岩手県盛岡市→青森県八戸市→青森県青森市 ◎盛岡駅のタクシー労働者の声

- ・ 連休以降、売り上げが極端に減って大変だ。
- ・ ライドシェア反対で、仙台の自交総連ががんばっているのは聞いている。自分もライドシェアは反対だ。
- ・ 仙台からご苦労さん。
- ・ インバウンドの外国人が駅に来ているがタクシーには乗らない。

- ・ コロナ以降、夜のお客さんが減って夜勤で稼いでいた人が相当やめていっている。
- ・ 企業の倒産が増え、厳しい実態だ。

◎八戸駅のタクシー労働者の声

- ・ うちの会社（大内タクシー）は今月いっぱい廃業だ。市内のタクシー会社は小さいところが相次いで合併している。
- ・ 催し物があれば少しは動くが、連休明けは暇だ。
- ・ 高齢者割引や遠距離割引などがドライバーの負担となっており、水揚げが上がらない。だから若い人もやめていくし、新しい人も入ってこない。遠距離を走っても面白くない。
- ・ アプリ配車もやっているが、台数が少なく、効率的ではない。
- ・ ライドシェアなど反対だ。

【5月25日】 青森県青森市→青森県弘前市→宮城県仙台市

◎青森駅のタクシー労働者の声

- ・ 売上が上がらず、じり貧だ。
- ・ 自交総連のことは知っている。
- ・ タクシープールが目立たないところに置かれてしまった。政治の力が働いたようだ。
- ・ ライドシェアには反対だ。
- ・ 昨年暮れから、珍田タクシー、リンクタクシー、そしてついこの間、日の出タクシーも倒産した。タクシーは大変だ。

◎新青森駅のタクシー労働者の声

- ・ 新青森駅は青森駅より当たりがいい。弘前まで行く客もいる。ただし待ち時間が長く、新幹線は1時間に1本の割合。

◎弘前駅のタクシー労働者の声

- ・ 日曜日は暇で2時間待ちのときもある。
- ・ 今年の冬は大雪で売上が上がったが、桜も終わり、5月に入って売り上げが落ちている。
- ・ ライドシェアは反対。

【参加者の感想】

- ・ 移動の距離が長くて大変だった。
- ・ 会社の倒産・廃業がさらに増え、将来に対する不安が増している。地域住民の交通手段についても不安が増大している。
- ・ ライドシェアについては反対の声しかなく、期待の声など出ていない。

- ・ 労働組合がなく、先の見えない状態も広がっている。自交総連の役割が増している。定期的な宣伝行動が必要。とりくみを強化したい。

関西・京都 今すべきは公共交通を守ること

2025. 05. 26＝京都・京都駅前



「ライドシェア全面解禁阻止」の一点共闘で始めた京都の「共同闘争」は第15波となり5月26日、JR京都駅烏丸口と四条烏丸で宣伝行動が行われました。

自交総連からは庭和田地連書記長（本部委員長）が登壇し、日本維新の会が衆議院に提出したライドシェア法案について、「タクシ

ー労働者だけの問題ではなく、利用者である皆さんの問題だと認識してほしい。ライドシェアが解禁された世界の国々では、口にもしたくないようなさまざまな犯罪が発生し、現在では規制や禁止の方向で大きく舵を切っている国も多い。そんなものを日本で解禁してどうしようというのか。今やらなければならないことは、安心して安全な公共交通を守ることだ」と利用者へ理解を求めました。